

「学んだ知識・技術を活用し、よりよい生活を 求めて実践する力を育む授業の研究」

—共に学ぶ活動を通して—

岩手県技術・家庭科教育研究会
盛岡市立上田中学校 三浦 伸也

1 はじめに

平成24年度に全面実施となった新学習指導要領に関わり、県内の各校では指導内容の検討や年間指導計画の充実が図られ、学校や地域の特色に応じた教育活動が実践されている。

昨今の教育界では、将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子どもたちに現在と未来に向けて、自らの人生を拓いていく力を培うことが求められている。

本県では、これまで研究を進めてきた内容や目指す生徒像、身につけさせたい力については変わるものではない、と考えている。時代の変化に伴って題材が変化しても、技術・家庭科で指導すべき内容の本質は不易なものであり、これまでの研究内容を更に深化、発展させていくことが大切である。

本県では、平成14年度以来隔年で県大会と実践交流会を開催し、研究を進めてきている。一昨行われた一関地区での東北大会においては、研究主題に基づいた研究授業が提供され、「創造する力の育成」や「思考の筋道を整理する活動」に対する、「問題解決的学習の授業構造の定着」「共同学習による思考の深化、修正」「自己決定及び自己評価（表現）」の3つの手立てについて討議を行い、研究を深めることができた。

これまでの研究の成果を踏まえ、これから求められる力を育む授業を提案したいと考え、昨年度から主題および副題を次のように設定した。

「学んだ知識・技術を活用し、よりよい生活を求めて実践する力を育む授業の研究—共に学ぶ活動を通して—」

2 研究の経過

(1) 研究の土台となる考え

岩手県の研究がこれまで長年の間、土台としてきた考え方がある。

その1つが「技術的能力」である。「技術的能力」とは、それまで獲得した理論と実践を統一して、生涯にわたって課題を解決する力である。問題解決型の学習の中で、生涯の考えを広げたり変容させたりする試みを繰り返すことで生活における課題を解決する力を身につけさせていくという考えである。

技術的能力

「それまで獲得した理論と実践を統一して、生涯にわたって問題を解決する能力」

5つの要素

- ①解決すべき課題を発見する能力
(課題発見能力)
- ②技術に関する体系的な知識や技能を使って、適切な計画を立てることができる能力
(情報選択能力、課題解決を見通す能力)
- ③安全かつ的確に処理する能力(処理能力)
- ④改善する能力(工夫創造の能力)
- ⑤評価する能力(評価の能力)

もう一つが「科学的視点」である。授業で基礎・基本の定着を図ることは当然であるが、実習や実験における作業工程や内容について、なぜなのかを考えさせ、科学的根拠を明確にし、裏付けのある知識や技能を習得させることが必要であるという考えである。

(2) 研究主題について

将来、生徒が直面するであろう問題の解決策には、正解があるとは限らない。その解決策を考える場面においては、科学的な認識を基にした思考によって導き出されるべきである。その科学的な認識とは、より確かな知識と技術であることが求められ、その獲得場面も重視されるべきである。

- ①学んだ知識：生徒が持っている生活概念やあいまいな知識を科学的に捉えなおし、より確かな知識としたもの。
- ②学んだ技術：「物事を取り扱ったり、処理したりする際の方法や手段、またはそれを行う技」「科学の研究の成果を生かして、人間の生活に役立たせる方法」のこと。
- ③よりよい生活：直面する問題を解決していった先に得られる生活のこと。生徒自身が主体的に「生活上の問題」に気づき、課題として解決していく姿勢も求められる。この「生活上の問題」に気づく力は課題発見能力とも表現される。その力が育てば育つほど、「よりよい生活」のレベルもより高いものになると考えられる。
- ④実践する力：課題発見能力から課題解決までの思考の筋道を、より確かな解決策に向かって、主体的に操作する力のこと。この「思考の筋道」の捉え方については、前主題における研究をいかしていく。

(3) 昨年度までの成果と課題

一昨年度までの研究において、自己評価（表現）によって個人の創造が共同学習を通して創造に変化した例が見られたことが成果として挙げられた。一方、生徒が自己評価（表現）において、文章で表現することに対するハードルの高さや、どのように書かせるか、についての指導の工夫、さらに生徒の変容を見取るための学習シートの工夫について課題が残った。また、共同学習の場が、生徒の思考を広げられるような学習場面とな

るよう、その具体的な方法について課題が残った。

現在の研究主題については平成27年度から設定し、平成27年度には実践交流会を行った。実践交流会では、各地区からの実践レポートと参加者による意見交流により、「共に学ぶ活動」は、生徒同士の学び合いだけでなく、教師や家庭、地域や外部講師など、広く捉えることを確認することができた。さらに、岩手県のこれまでを振り返っても、改めて「共に学ぶ活動」として捉えられる多くの実践が蓄積されているが、さらにより深い実践を積み重ねていくべきだ、という意見も出された。

3 平成28年度の研究構想

平成27年8月、文部科学省から示された「教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）」では、新しい時代に必要となる資質・能力を「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「人間性や学びに向かう力等」という三つの柱で整理すること、育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実の重要性が述べられている。また、技術・家庭科の現状として、関心や有用感が高いものの、知識・技能を活用して生活の課題を解決する能力や実践力を身につけることに課題があること、家庭や社会とのつながりを考え、人と関わる力を高めることに課題があることが挙げられている。さらに、技術と社会や環境との関わりの理解に課題があることも述べられている。総じて、生徒を取り巻く社会がめまぐるしく変化する中でも、生徒が生きていく力を養う必要がある、と述べている。

本県にとっても、情報化・グローバル化が急激に進展する不透明な時代において、個々に問題を解決していく力だけではなく、協働して解決していく力、そして実社会における生活にいかしていく力を養うことが必要である。

そこで副題の「共に学ぶ活動」については、生徒が協働して学び合う活動（平成26年度までは

共同学習としていた)や、地域社会・家庭・学校、教師・保護者等と共に学ぶ活動としたい。自分以外の他者とのかかわりのなかで、より広い視野をもち、よりよい生活を求めることにもつながると考えられる。

今年度の研究では、この「共に学ぶ活動」について、主題に迫るための学習活動の各場面で、授業の中でどのように位置付けるか、を重視したい。特に「知識・技術を身につける段階」「思考力・判断力・表現力等を養う段階」「人間性や学びに向かう力等を育てる段階」それぞれにおいて、有効な学びが得られるよう、実践を深めたい。また、その学習活動によって、「どう考えたか」「どう考えが変わったか」などの変容を見取るための学習シート、および自己評価(表現)の進め方について検討を深めたい。

4 「実践する力」を培うための3つの手だて

(1) 共に学ぶ活動による深化・修正

①「より確かな知識・技術」を身につける授業では、生徒がもっている生活概念や曖昧な知識・技術、または生徒がもっていなかった知識や技能について、実験や生徒同士のかかわり合いによって科学的に捉えて一般化し、より確かな知識・技術として身につける。

②「思考力・判断力・表現力等」を養う授業では、課題に対して自分が考えた解決方法や答えについて、生徒同士が学んだ知識や技術を基にし、視点を明らかにして話し合う。他の人の考えや思考過程を理解したり、自分の思考の筋道を確認したり、修正したりすることが大切である。

③「人間性や学びに向かう力等」を育てる授業では、学習した内容と社会生活をつなぐことを大切にする。知識や技術を活用しながら生徒自身が生活していくよう、持続性のある意欲をもたせるために、生徒同士や対教室、学校における活動のみならず、地域や保護者など、広く関わることも考えられる。

(2) 自己決定

「共に学ぶ活動」の後に、根拠を明らかにして課題に対する自己決定を行う。基になるのは学んだ知識・技術であるが、「共に学ぶ活動」を通してより確かな理由付けがなされることになる。結果として課題を解決することが大切なのではなく、思考の筋道をたどって結論を導くことを重視する。自己決定の表現方法に関しては、文章による表現、フローチャートによる表現等、技術家庭科の特性に応じた表現も含まれる。自己決定の内容については、課題の解決に対する最善策であることも考えられる。また、この自己決定において生徒がどのように変容したか、変容を可視化する方法について検討する。

(3) 自己評価(表現)

分かったことや分からなかったこと、どのように結論に至ったのか、について振り返り文章で表現することでメタ認知を促し、「実践する力」の育成を図る。より意義のある自己評価(表現)となるよう、記述のさせ方や授業で取り上げる場面など、検討を深めたい。

これら、3つの手立ての定着を図ることにより、「学んだ知識・技術を活用し、よりよい生活を求めて実践する力を育む授業」の実践が期待できると考え、積極的に取り組んでいきたい。

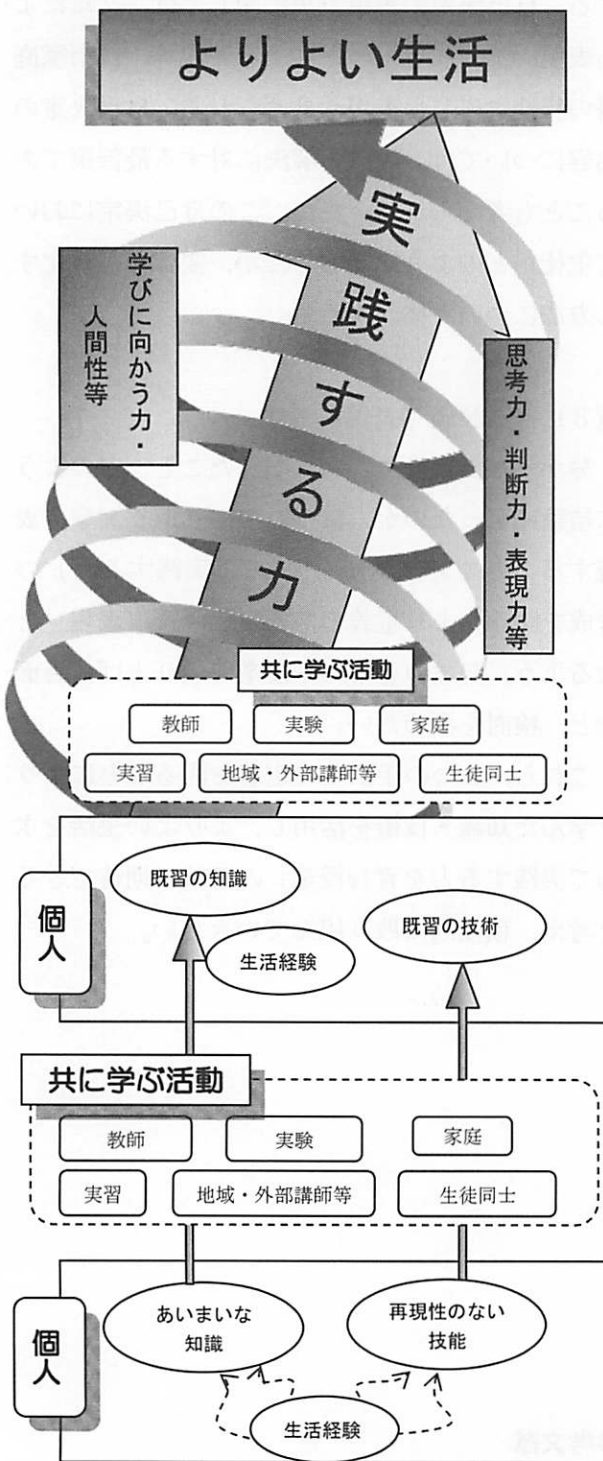
参考文献

文部科学省『教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)』2015年

「学んだ知識・技術を活用し、
 よりよい生活を求めて実践する力を育む授業の研究」
 ～共に学ぶ活動を通して～

よりよい生活を求めて実践する力を育むための基本構造

学習活動の構造



授業の構造

